

# なでしこ通信 26 号の付録

## なでしこ通信 26 号付録

### 「人権」は「人倫」で置き換えてみましょう

安江 薫

平成19年の世相を表す漢字は「偽」でした。

偽や欺の世相は以前からのことでしたが、遂にそれが極まったということなのでしょう。

本会会誌「なでしこ通信」18号によれば、松山市男女共同参画推進条例も「偽・欺」に当たるようです。

たとえば、その前文の冒頭に、「すべての人が個人として尊重される」とか、「自らの意思によって能力を発揮する」というような美辞麗句があって、素晴らしい条例であるかのように飾り立てているけれども、よく考えてみると、それは恐ろしい意味を秘めていて、市民が欺かれているのだとのこと。

松山市議会は条例の運用を是正する請願を採択して状況を改善しましたが、油断も隙もありません。

法律まで疑わなければならないとは、実に不幸なことです。

最近よく聞く言葉の一つに「人権」があります。

男女共同参画がらみでも出てきます。

この言葉も美しい衣をまっとうはいますが、相手を威圧して黙らせるために用いられることがしばしばです。

しかし、その場合、往々にして用い方を間違えている疑いがあります。

### ◆ネットいじめのテレビドラマ

先日、見るともなしにテレビドラマを見ていたら、何となく教育的な言葉が聞こえたので、以後少し本気になりました。そのドラマは話題のネットいじめを扱ったものでした。

記憶があやふやなのですが、そのドラマの筋立てはおおむね次のようです。

女子高校生が全国絵画コンクールで最優秀賞を獲得したのを妬んで、その友人の女子高校生がネットの掲示板で、「まぐれなのに凶に乗るな」などと書き込みをした。

書き込んだ当人は軽い気持ちだったが、それをきっかけに中傷の書き込みが殺到した。

父親が脳の病気だとか、母親が不倫をしているといった内容である。

脳の病気とはうつ病のことである。

きっかけを作った高校生が悩んでいるうちに、それを両親が知ってしまう。

黙っていれば誰にも知られないが、そんなことでこれから生きていけるのか？結局、両親と一緒に謝りに行くが、許してもらえない。

母親が学校に相談に行くと、学校も重大視して対策を検討中だと言われる。

そうこうして、講師を招いて人権学習会が催される。

まず講師が、「透明人間になれたら何をしたいか？」と質問する。

男子高校生が「女風呂を覗きたい」と答える。

それに対して、講師が「よい答えだ」と言う。

パソコンの前に坐って中傷している人は相手には見えないから、透明人間のようなものだというわけである。

次に講師が問う。「どういうときに問題が起きますか？」。

他の女子高校生が発言する。「人権意識が低いときです」。

講師が我が意を得たりと、「そうです。人権を尊重しなければなりません」と答えるのである。

## ◆人権啓発番組でした

最後に制作者が表示されて、どこかの県の人権委員会と教育委員会であることが判明しました。

新聞の番組表で調べたら、人権啓発番組とありました。

## ◆どうしようもない違和感

見終わって、というより見ている最中からどうしようもなく違和感を覚えました。

これは果たして人権の問題なのか。

もしそうなら、どういう権利を侵害したのか、少くく説明してもよさそうなものです。

私が違和感を覚えた原因は他にもあったはずですが、見終わった時点でははっきりしませんでした。

しかし、少なくとも軽々しく人権を振りかざす人たちの愚かさは感じられます。

出演した俳優はいったいどのように納得して出演に応じたのでしょうか。

また、透明人間の例えはよくありませんね。

なぜなら、透明人間が女風呂を覗いても、それだけでは何も起きなかったと同じだからです。

問題は透明人間が知りえたことを他人に伝えたときに生じるのです。

透明であろうとなかろうと、問うべきは人の品性ではないでしょうか。

## ◆権利は自己本位な概念

私はこれまで「人権」には踏み込まないようにしてきました。

ですから、「人権」を振りかざされたときに違和感は持つものの、それにどのように対処すべきかは深く考えたことがありません。

しかし、今度のテレビ番組が、「人権」という用語の正体を掴むきっかけを与えてくれたように思います。

きっかけに過ぎないとはいえ、やはり言葉を厳密に深くしかも猜疑心をもって理解しないと、違和感を解消できないのです。

ある国語辞典によれば、「権利」とは、物事を自由に行ったり、他人に対して当然主張し要求することのできる資格とされています。

つまり、権利そのものは自己本位な概念であって、配慮的概念ではありません。

## ◆「人権意識が低い」は「権利」の誤用

「人権意識が低い」ということは、自己が自由に行えることや主張し要求できることについてよく認識していないとい

う意味になりますが、それではドラマの流れは理解できません。

ドラマでは、「他人の人権について配慮が足りない」という意味に誤用しているのです。

私の違和感の原因はここにあったのです。

### ◆権利と義務の取り違え

世に叫ばれる「人権」は、上の例と同様、たいてい「他人の人権の尊重」のことです。

繰り返しますが、その言葉の用法は間違っています。

「他人の人権の尊重」は、思いやりや良識、倫理、遵法精神の領域に属することであり、「人倫」という言葉で表現されるべきです。

「人倫」はもはや権利ではなく、むしろ義務です。

自分の権利を主張する人は他人の権利を認める義務があります。

ささいなことのように思えても、それを見過ごすと実は重大な結果をもたらします。

今はそういう「偽」の社会なのですから、警戒が必要です。

### ◆なぜ誤用が横行するのか

それでは、なぜ誤った用法が横行するのでしょうか。

世の中には自らの主義・主張を通し、広め、社会の原則としたいという強い意向を持つ人たちがいます。

その目的のために、彼らは外向的な言葉を必要とします。

ところが、的確な言葉である「人倫」あるいは「義務」は内向的であるため効果が薄いのです。

そこで、一部の人たちは、「人権」という一見美しい衣をまとった外向的な言葉で惑わすのです。

さらに、彼らはそもそも倫理や義務を嫌います。

それどころか、権利を唱えて倫理や義務から解放されることをこそ願っています。

ですから、正しく言葉を使える前提自体が存在しません。

このことはジェンダーフリーを思い起こせばうなずけます。

ジェンダーフリーとは、社会規範からの解放のことなのですから。

### ◆「人権」に違和感を覚えたら……

「人権」に違和感を覚えたら、ひとまず「人倫」に置き換えてみましょう。

霧が晴れるように違和感が消えたら、誤りを指摘してあげましょう。

「人権」を「人倫」に置き換えてみたら、と。